

見られないイシガレイ

■イシガレイは見つからず

今回は七北田川河口での調査を行うことができたが、イシガレイの稚魚を採集することはできなかった。これまでの調査で8月に全く採集できないことはあったが、7月は少数であっても成長したイシガレイを採集することができていた。昨年(2018年)の7月から堤防工事が進み、河口に入って調査できたのは8月5日の調査のみである。この時はイシガレイを1匹採集している。昨年、今年と河口でイシガレイが少ない、あるいは見られないのは堤防工事の影響なのか、早めにイシガレイが外海に出てしまったのか確定することはできない。工事終了後以前のようにイシガレイの姿が見られるのか、今後の調査で目を向けていきたい。

河口域の七北田川左岸には泥地が存在する。2016年には柔らかな泥地が存在してヤマトオサガニが見られたが(レポートNo.121参照)、2017年は泥地が減少していた(レポートNo.148参照)。今回の調査では柔らかな泥地はなくなりヤマトオサガニも見られなかった(Fig.1)。生息していたのは、チゴガニ、アシハラガニ(Fig.2)、コメツキガニである。国土地理院平成30年3月8日発表の「特集・平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震から7年」によると、震災時30cm程度沈降、その後隆起が継続し、震災前と比較して沈降10cm未満である。そのため柔らかな泥地が失われているのではないだろうか。なお、河口ではモクズガニを4匹採集した(Fig.3)。海と川の行き来は現在も順調に行われているようである。



(Fig.1 七北田川河口域の泥地)



(Fig.2 アシハラガニ)



(Fig.3 モクズガニ)



(Fig.4 マハゼ)

■潟湖内のマハゼ

今回の調査では、潟湖内でマハゼを採集した(Fig.4)。以前に蒲生干潟でマハゼを採集したのは2016年である(レポートNo.121参照)。昔ハゼ釣りの名所として賑わった姿からはほど遠いが、いつかはかつての姿が戻ることを願うものである。